

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-77

学校名・団体名	相楽東部広域連合立和東中学校
HPアドレス	http://www.kyoto-be.ne.jp/watuka-jhs/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	フジバカマを育て、アサギマダラが乱舞する学校にしよう
〈活動・研究の意義、目的〉 ① 絶滅寸前種であるフジバカマの栽培を通して、フジバカマを保護する態度を育てる。 ② アサギマダラのマーキング調査をすることで、環境に対する豊かな感受性、見方や考え方を育て、環境に働きかける実践力を身に付ける。 ③ 生徒に身に付けたい力「夢や目標に取り組む力」を育てる。 ④ フジバカマの栽培とアサギマダラのマーキング調査について、京都府民等に発表することで表現力を育てる。	

1 実施計画に至るまでの経緯

アサギマダラはマダラチョウの仲間で、渡りをする蝶として知られている。現在全国各地で、そのチョウの羽に油性のフェルトペンで記号を書いて放すマーキング調査が行われている。日本では沖縄から北海道まで見ることができるが、春から初夏は北上し、秋には南に向かって移動することが分かっている。

昨年、地元の方から、フジバカマを庭に植えたら10月にアサギマダラがたくさん飛んで来たことを聞きました。生徒からもアサギマダラを見てみたいという声があり、中学校としてもマーキング調査に参加しようとなった。そんな中、地元の方からの提案もあって、今年アサギマダラが蜜を吸う植物「フジバカマ」の苗を譲り受けた。作業については、地元の方からの指導を受け、アサギマダラを学校に呼び込みたいと思っている生徒といっしょにフジバカマを植えることにした。これから、旅の途中で、ぞくぞくとアサギマダラが立ち寄ってくれることを期待し、エコクラブを立ち上げ活動することになった。

2. 活動内容

(1) 活動者 エコクラブ部員（アサギマダラを呼び寄せたい生徒16名）

(2) 取組
フジバカマの栽培
アサギマダラのマーキング

- (3) ねらい
- ① 絶滅寸前種であるフジバカマの栽培を通して、フジバカマを保護する態度を育てる。
 - ② アサギマダラのマーキング調査をすることで、環境に対する豊かな感受性、見方や考え方を育て、環境に働きかける実践力を身に付ける。
 - ③ 本校の生徒に身に付けたい力「夢や目標に取り組む力」を育てる。
 - ④ フジバカマの栽培とアサギマダラのマーキング調査について、京都府民等に発表することで表現力を育てる。

(4) 活動の特色

フジバカマは、京都府のレッドデータブックでは絶滅寸前種である。フジバカマを栽培することは、貴重な植物を保護し保全する活動にもなる。日本国内でアサギマダラのマーキング調査に取り組んでいる人や関連団体と連携することはアサギマダラの生態解明にも繋がる。中学生が栽培し繁殖させたフジバカマは、希望される方に贈呈することで、地域ぐるみで、フジバカマ保存となる。これらの取組を地域等で展示発表することは、本校の生徒にとっても大きな自信になる活動と考えられる。

(5) 活動時期および内容

活動時期

フジバカマの栽培は5月
アサギマダラのマーキングは飛来時期に
(9月～10月)

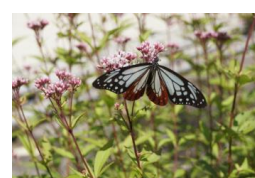
内容

フジバカマの栽培（一年を通して）
アサギマダラのマーキング

方法

フジバカマは、プランターで栽培する。栽培方法については、専門家の方から指導を受けて行う。毎日の水やりや栽培記録は生徒が行う。アサギマダラのマーキングの方法は、専門家から指導を受け行う。捕獲は昆虫用の捕獲網です。

フジバカマの栽培やアサギマダラのマーキングの様子を記録し、まとめさせる。栽培記録やアサギマダラのマーキングについてはパネルに整理し、地域等で今後発表させる予定である。



3. 成果と課題

成果

- ・生徒たちが住んでいる地域の自然を大切にする態度を育てることになり、自然保護活動に関心を持ち、実践できるようになった。
- ・生徒たちが住むふるさとに愛着を持ち、誇れるようになった。
- ・栽培を続けることで生物を愛し、大切にする態度が養われた。
- ・アサギマダラのマーキングの過程を通して生命の神秘を知ることができた。
- ・記録をまとめることで思考力・表現力・判断力が身に付いた。
- ・活動が毎日新聞に掲載された

課題

- ・飛来数が少なくエコクラブ員全員がマーキングできなかった。
- ・発表の場を十分に設定できなかった。

